

海外がん医療情報リファレンス by JAMT NEWS LETTER



2016.4-2017.3 Vol.8

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-22 S2ビル8F <http://jamt-cancer.org> TEL 03-3356-5710 FAX 03-5367-6032



〈第1回がんセミナー特別講演 大田先生〉



〈第1回がんセミナー後、質問に答える佐々木先生と翻訳者〉

がん医療イノベーション時代に向けて



〈第2回がんセミナー 最前列 右 辻村先生、中央 東先生、左 野中副理事長〉



〈欧州臨床腫瘍学会 (ESMO)〉

—vol.8の紹介—

- 1. ごあいさつP1
- 2. 「海外癌医療情報リファレンス」
活動報告P2
- 3. がんセミナー・勉強会P4
- 4. 監修者からP6
- 5. 翻訳者からP8
- 6. 副理事長から P10
- 7. スタッフから P11
- 8. 事務局からのお知らせ P12
- 9. 組織概要 P12
- 10. 協賛企業 P12

1. ごあいさつ

2016年は英国のEU離脱、「国境に壁」を作ることを訴えた米国のトランプ大統領の当選など保護主義的な政策が世界に衝撃を与えました。国内格差、移民など様々な問題に対する反動という面もあるでしょう。

しかし、大切なことは、保護主義か自由主義かではなく、それぞれの問題点を明らかにして、共通点を見いだしていく努力のプロセスなのだと思います。「言葉の壁」は特に日本では大きなものです。正しい情報を分かりやすく伝える努力のプロセスを継続することが真の社会貢献になると思います。

本年もJAMTへのご支援を賜りますようお願いいたします。

一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ 理事長 久保田馨

2.『海外がん医療情報リファレンス』活動報告

4月	【教育事業】「医療翻訳・基礎実践講座B全12回」開講	
5月	15日	『～患者のための～がんの臨床試験ハンドブック』電子書籍発行
6月	2日	コクラン日本支部会議（野中副理事長、鳥居塚出席）
	6日	コクラン会議（野中副理事長出席）国立成育医療研究センターにて
7月	27日	「海外がん医療情報リファレンス」ウェブサイト一次リニューアル
	31日	第1回がんセミナー「白血病の疾患概念と治療方法を基本から」 講師：佐々木裕哉先生（久留米大学医学部病理学講座） <特別講義>「コクランとコクランレビューの読み方」 講師：大田えりか先生（コクラン日本支部事務局長） <前講座>医療翻訳ワークショップ 「実例に見る翻訳のポイントとがん有効性評価の背景知識」（今泉真希子）
	【教育事業】「医療翻訳入門講座・夏期集中講座A」開講	
10月	1日	字幕翻訳勉強会 講師：瀧ノ島ルナ先生（フェロー・アカデミー講師、上智大学非常勤講師）
	7日～11日	第41回欧州臨床腫瘍学会ESMO2016コペンハーゲン(デンマーク) 患者アドボケートとして野中副理事長参加
	29日	第2回がんセミナー「総合診療医が行うがん患者ケア診療から教育まで」 講師：東光久先生（福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー） <ミニ講話>日本薬局方130周年について 講師：辻村信一先生（獣医学/農学博士、メディカルライター） <前講座>医療翻訳ワークショップ 「欧州臨床腫瘍学会ESMO2016患者アドボケート参加報告」および 「『海外がん医療情報リファレンス』翻訳者のための海外医療情報の背景と読み方」（野中副理事長）
	【教育事業】「医療翻訳・基礎入門講座A全9回」「医療翻訳入門講座Aコースレビュー」開講	
11月	2日	マギーズ東京『オープンマギーズデー』JAMTより5名訪問
12月	1日	『がん治療後の生活』電子書籍発行
2017年 2月	12日	第3回がんセミナー「医療系のための統計の基礎」 講師：石井一夫先生（東京農工大学特任教授） <前講座>医療翻訳ワークショップ 「医療翻訳での統計について」（石崎智子）
3月	5日	理事会／総会

『海外がん医療情報リファレンス』ボランティアサイトでのがんの情報提供

今年もスタッフ、監修者、翻訳者の皆様のご尽力により多数の翻訳情報を提供することができました。

ボランティア部門

《主な英文記事の発信元》

- 米国国立がん研究所 (NCI) -NCI ニュース、ファクトシート 薬剤情報 (A-Z)
- FDA ニュース -新薬承認と安全性報告
- 学会ニュース - 米国臨床腫瘍学会 (ASCO)、欧州臨床腫瘍学会 (ESMO)、米国がん学会 (AACR) プレスリリース
- 大学 / 施設ニュース MD アンダーソンがんセンター、ジョンズホプキンス大学、スローンケタリング記念がんセンター、ダナファーマーがん研究所
- ミネソタ大学 MD アンダーソンがんセンター専門家向け月刊ニュースレター「Oncolog」
- 英国医療サービス (NHS) など

《主な提供先》

- 「IKCC」(国際腎臓がん患者憲章) 日本語訳提供
- コクラン アブストラクトと一般向け説明文日本語訳提供

- キャンサーチャンネルに動画提供

- がん情報サイト「オンコロ」ニュースに元記事提供 など

収益事業部門

- ヘルスデーニュースの短報
- エルゼビアジャパン
- コクランライブラリー(ニュース)翻訳一部リリース
- 厚生労働省「『統合医療』にかかる情報発信等推進事業」(大阪大学大学院 医学系研究科 大野智先生主導) 翻訳
- キャンサーネットジャパン機関誌に記事提供
- 筑波大学かんプロ逐次通訳
- 対訳データベース「英辞郎pro」訳文提供
- その他、医療論文、医療用 E-Learning 翻訳 など

学会参加報告

今年も広く学びの場を求めて JAMT より参加しました。JAMT ボランティア翻訳者の参加は、ボランティア活動の向上につながります。一人でも多くの参加を期待しています。

第14回日本臨床腫瘍学会学術集会

会期：7月28日（木）～30日（土）

会場：神戸国際展示場・神戸国際会議場

JAMTよりボランティア翻訳者1名（以上）参加

第54回日本癌治療学会学術集会

会期：10月20日（木）～22日（土）

会場：パシフィコ横浜

JAMTよりボランティア翻訳者4名（以上）参加

「海外がん医療情報リファレンス」ウェブサイトリニューアル

最新のネット環境に対応するため、ウェブサイトのリニューアルを実施しました。スマートフォン対応、サーバー変更、検索方法の拡充、ニュース画像や文字の読みやすさへの配慮、Google 検索への対応、また国立がん研究所 (NCI) が大幅なリニューアルを行ったことに伴う当サイト記事の再編などを行いました。記事の移行やリンク切れ等の対応は翻訳者やスタッフに協力いただき、いまだ進行中です。さらに読みやすいサイトを目指し、本年は継続してデザインを中心としたリニューアルを進めます。(大日本住友製薬株式会社 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社をはじめ各協賛企業によるご支援)



コクランレビューの翻訳開始

昨年度より推進してきたコクランレビュー翻訳プロジェクトの翻訳を開始しました。がん関連の報告のアブストラクトと一般向け説明文を翻訳します。これまで約15本翻訳し、コクラン日本語版に掲載されています。
URL: <http://www.cochrane.org/ja/evidence>



電子書籍化プロジェクト進捗報告

(ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 助成金活動)

昨年より米国国立がん研究所 (NCI) 冊子やファクトシートの電子書籍化を進めています。今年度は次の2本が完成し、各電子書籍ストアで販売しています。ご覧になった方はぜひレビューの投稿をお願いします。



「～患者のための～ がん臨床試験 (治験) ハンドブック」 「がん治療後の生活」

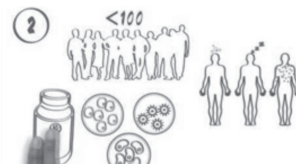
海外癌医療情報リファレンス、アクセス数の多かった2016年発行の記事ランキング

記事タイトル
1 非浸潤性乳管がん (DCIS) 診断後の乳がんによる死亡リスクは低い／米国国立がん研究所 (NCI) ファクトシート
2 専門医に聞く：乳癌に対する食事と運動の効果／がん相談支援センター
3 BRCA1、BRCA2 遺伝子：がんリスクと遺伝子検査／米国国立がん研究所 (NCI) ファクトシート
4 低腫瘍量の濾胞性リンパ腫では、再燃後リツキシマブ再治療は同維持療法に匹敵／米国国立がん研究所 (NCI) 臨床試験結果
5 がんに対する標的免疫療法の進展／米国国立がん研究所 (NCI) ブログ～がん研究の動向～
6 治療が終了した後に一認知機能の変化／LIVESTRONG
7 アブラキサンは膵臓癌患者の生存を改善する／がん相談支援センター
8 手術後に放射線治療を受けない非浸潤性乳管がん患者の長期的転帰／がん相談支援センター
9 前立腺癌に対するホルモン療法／NCI ファクトシート
10 FDA が進行性非小細胞肺癌の治療にベムプロリズマブを承認／米国食品医薬品局 (FDA) ニュース
11 ナブパクリタキセルとゲムシタビンの併用で転移性膵臓がん患者の生存率が改善／NCI 臨床試験結果
12 女性が気をつけたい婦人科癌の10の症状／MD アンダーソンがんセンター
13 多発性骨髄腫に対する3種類の新薬を承認／米国国立がん研究所 (NCI) ブログ～がん研究の動向～
14 免疫チェックポイント阻害剤の進歩／NCI ブログ
15 ルミナールAタイプの乳癌では術後化学療法の効果は認められず (SABCS2015)／米国がん学会 (AACR)
16 TPF 療法
17 治療が終了した後に一末梢神経障害／LIVESTRONG
18 乳がん患者で化学療法の開始が遅れると全生存が低下トリプルネガティブ乳がんで顕著に／MD アンダーソン
19 Hyper-CVAD 療法
20 芽球形質細胞様樹状細胞腫瘍に希望となる新たな分子標的 (CD123) 治療／OncoLog2015 年 10 月号
21 FDA が進行肺がんの治療にニボルマブの適応拡大を承認／FDA ニュース
22 癌患者の終末期ケア／NCI ファクトシート
23 リンパ腫患者の余命は、診断後の無再発期間2年経過で通常の平均余命にまで回復／メイヨークリニック
24 2011/11/01 号◆クローズアップ「癌悪液質の謎に挑む」／NCI キャンサーブレティン
25 個別化医療 (Precision Medicine) に関して知っておくべき5つのこと／ダナファーマーがん研究所

今年度製作した NCI 翻訳ビデオ



〈子宮体がん (子宮内膜がん)〉



〈臨床試験の“相”とは？〉



〈TCGA データのパワー〉



〈個別化治療との関連〉



〈がんの分子構造を解明する〉



〈リサーチ・アドボケートの存在意義〉



〈リサーチ・アドボケートの役割〉



〈NCI におけるリサーチ・アドボケート〉



〈がん研究に患者の声を〉

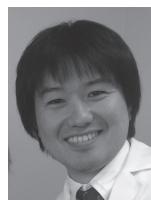
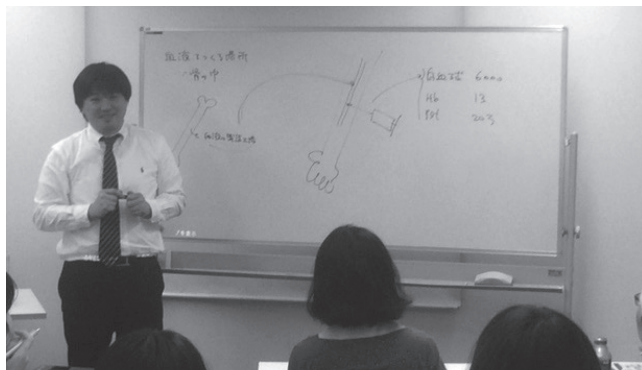
3.がんセミナー・勉強会

第1 回がんセミナー

テーマ:「白血病の疾患概念と治療方法を基本から」

日時:2016年7月31日(日) 14:30~15:55

講師:佐々木裕哉先生(久留米大学医学部病理学講座)



血液のがんとして知られる白血病について基本的な事項から最新の治療についてまで明快にご説明いただきました。「血液はどこで作られるか知っていますか?」の質問から始まり「血液検査のみかた」「白血病とはどんな病気? 血液のがんとは?」「白

血病の症状」「白血病の種類」「白血病の治療法」「造血幹細胞移植」についてお話をいただきました。セミナー後、参加者との歓談でも質問に丁寧にお答えいただきました。多くの方から「とてもわかりやすくこれまでの疑問が明らかになりました」という声が聞かれました。

特別講演:「コクランレビューについて」16:00~17:00



講師:大田えりか先生(コクラン日本支部事務局長)

聖路加国際大学大学院看護学研究科 国際看護学教授・国立成育医療研究センター研究所 客員研究員・コクラン日本支部事務局長・コクラン妊娠出産グループアソシエイトエディター

コクラン日本支部事務局長の大田先生をお招きし、医療のエビデンスについて、またコクランが取り組むシステムティックレビューやその他の研究についての詳しいお話をいただきました。はじめに、乳がんのマンモグラフィ検診のレビューが紹介され、実際の医療のエビデンスと一般常識とのあいだの相違を知ったうえで、医学的疑問を解決する研究の重要性を示され、そ

の方法論などもご説明いただきました。

昨年より、JAMT はコクランレビュー翻訳プロジェクトに参加しており、JAMT のボランティア翻訳者にもその重要性を感じていただける講義となりました。

翻訳プロジェクトへの参加はもちろん、関心ある医療者の方々にはシステムティックレビューにも挑戦していただきますようお願いします。

翻訳ワークショップ 13:30 ~ 14:10

「実例に見る翻訳のポイントとがん有効性評価の背景知識」

講師:今泉真希子(医療翻訳講座講師)

昨年好評をいただいた「実例に見る医療翻訳のポイント」の続編として、今回も参加者で実際に例文を翻訳し、検証しました。また JAMT の翻訳には欠かせない「がん有効性評価の背景知識」にスポットをあて、がん治療効果判定の基準用語や臨床試験の評価項目用語を学びました。

字幕翻訳勉強会

日時:2016年10月1日(土) 10:00~12:00

講師:瀧ノ島ルナ先生(映像翻訳者)

毎年好評をいただいている字幕勉強会、講師には JAMT 字幕指導の瀧ノ島先生と今回は JAMT 字幕指導の寺田真由美先生も大阪から参加いただき、賑やかな勉強会となりました。字数との闘いになりがちな字幕翻訳についてその基本とおもしろさ、醍醐味をレクチャーしていただきました。参加者で翻訳した動画「臨床試験の“相”とは?」は「海外がん医療情報リファレンス」ウェブサイトに掲載されています。字幕勉強会に参加していただいた方は、今後の字幕翻訳のエントリー資格が得られます。参加したことがな

い会員の方も、ぜひ次年度で参加ください。



〈前列 左 瀧ノ島先生、右 寺田先生〉

第2回がんセミナー

テーマ:「総合診療医が行うがん患者ケア-診療から教育まで-」

日時:2016年10月29日(土) 14:30~15:55

講師:東光久先生

(福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー)



昨年より白河総合診療アカデミーで総合診療に携わっていらっしゃる東先生をお迎えしました。「主治医力とは」「総合診療とは」「General oncologist とは」「白河総合診療アカデミーの紹介」を主軸に、がん診

療を取り巻く問題点とがん診療の将来像について、具体的なエピソードを交えながらお話しいただきました。グループディスカッションでは全員が和気あいあいと意見を交わし、質問コーナーでも活発な発言がありました。「東先生の熱いメッセージに感銘を受けました」という感想を多くいただきました。

ミニ講義 テーマ:「日本薬局方130周年について」

講師:辻村信一先生

(獣医学/農学博士、メディカルライター)



明治19年の初交付から130周年を迎える日本薬局方について、医薬品の品質規範書として貢献してきた歴史や初版の日本薬局方(官報)をご紹介いただき、興味深いエピソードをお話しいただきました。

第3回がんセミナーについては次号でご報告します。

2017年2月12日14:30~

テーマ:「医療系のための統計の基礎」

講師:石井一夫先生(東京農工大学特任教授)



翻訳ワークショップ 13:30 ~ 14:10

「欧州臨床腫瘍学会 ESMO2016患者アドボケート参加報告」

「＜海外がん医療情報リファレンス＞翻訳者のための海外医療情報の背景と読み方」

講師:野中希(JAMT 副理事長)

前半は患者アドボケートとして参加した欧州臨床学会(ESMO)の報告(P10 下記事参照)でした。過去最高数となった重要演題(LBA)やプレジデンシャルシンポジウム中で注目の「免疫チェックポイント阻害剤」「がんの遺伝子変異」などについて解説がありました。後半は正確ながん情報の重要性を再確認し、研究論文を読むために必要な知識の詳説、実際に必要な情報を検索する演習を行いました。

そこが知りたい医療翻訳

1

ケアレスミスに気をつけましょう

誤字脱字、薬剤名や数字の間違いなどのケアレスミスがよく見受けられます。特に薬剤名や数字は訳文の内容に関わる重要な部分ですので、提出前に今一度見直しをしましょう。翻訳直後に見直しをするよりも、時間を置いて頭を一度クリアしてから行う方がお勧めです。

2

訳文のつながりを意識しましょう

訳文の内容が文の前後で矛盾していることがあります(冒頭の要約と本文で治療手順が異なるなど)。一文一文を訳すことだけに集中するのではなく、全体を通して意味がつながる訳文になっているか確認するようにしましょう。

3

一次情報を調べてみましょう

翻訳をしていると、訳文の意味がはっきりと掴めないこともあると思います。そのようなときは一次情報を調べてみるのも手です。原文が臨床試験に関する内容の場合、記事の元になった論文や学会の要約などがインターネットなどで読めることがあります。自分が確かめたい情報が必ずしも見つかるとは限りませんが、このような情報に当たることによって疑問が解決できることがあります。

小泉美希(翻訳管理)

おすすめの講座

JAMT ボランティア翻訳に役立つ次の講座をおすすめします。

■放送大学 教養学部 「がんを知る」

<http://www.ouj.ac.jp/hp/kamoku/H28/kyouyou/C/seikatu/5710022.html>

■臨床研究に携わる人のeラーニングサイト ICR 臨床研究入門(受講料無料) <https://www.icrweb.jp/>

JAMT 医療翻訳講座のお問い合わせはJAMT事務局まで。(P11参照)

4. 監修者から



「信頼できる発信源からの医療情報を、読みやすく質の高い日本語で」

米国 カンザス大学医療センター腫瘍内科 小宮武文

2004年から野中希氏によって立ち上げられたこの『海外がん医療情報リファレンス』ですが、私は2008年ころから、監修に参加させて頂いております。当初は、私がたまたま所属しておりました米国国立癌研究所（NCI）が発行する冊子「NCI Bulletin」の翻訳が我々の主な仕事でした。残念ながらNCI Bulletinは終了となりましたが、その後は様々な冊子、情報を手がけるようになり、スタッフもセミナーや海外学会参加など、それまで以上に精力的な活動をされています。多くの仕事は翻訳ボランティアの方々によって業務がなされており、頭が下がる次第です。実際の翻訳と違って私がさせて頂いている監修は全体のごくわずかな部分ですが、その一端を担うことができ光栄に思っております、これからもよろしくお願いいたします。

現在は当初よりもかなり多い監修者の方々が参加しておられるようです。拝見しますと様々なバックグラウンドをもつ方々が監修に当たっておられ、以前のニュースレターに皆様の活動内容が記されています。私もかなり特異な経歴をもっていると自負しておりますが今回は自己PRはほどほどにしまして、JAMT本来の趣旨に帰って考えてみたいと思います。

インターネット、携帯電話、スマートフォンなどの発達に伴って、情報の量、スピードは一昔前とは全く比較できないほど膨大迅速となりました。新しい新薬開発、承認な

どの情報は本来まず研究者だけの集まり（学会）で報告され、その後しばらくして論文発表、政府による承認という手続きでした。最近は重要な研究は、学会と論文発表両者同時に行われる傾向にあります。時には製薬企業が学会／論文発表を待たずにプレスリリースという形でインターネット上にのみ結果を報告することもあります。このような情報の多様化もまた翻訳者やJAMTのスタッフの頭痛の種となっているかもしれません。

近年は分子標的薬剤、新規免疫療法、遺伝子検査、個別化医療に基づいた臨床試験などの開発がさかんとなり、それらに関連したボキャブラリー（語彙）が増えてきております。中にはもう日本語化（カタカナ）した言葉も多くありますが、必ずしも多くの患者さんたちがこれらの新しい語彙に慣れているわけではありません。新しい語彙を作っている若い世代の方々ではそう問題ではないかもしれませんが、癌に罹患する年代の方々にそれらをどんどん吸収理解させるのは酷だと思います。私自身米国に10年以上滞在しております上、最近の輸入されたカタカナ語彙にはついていけない部分があります。私たち翻訳者／監修者として、こういう新語をどのように扱っていくかは永遠の課題でしょう。本来の趣旨を守るため、読みやすい、かつ質の高い日本語を提供するべく皆さんと共に努力したいと思えます。

乳腺外科の立場から

順天堂大学医学部附属練馬病院 乳腺外科 小坂泰二郎



乳がんは固形癌（白血病などと異なるいわゆる癌）の中でも、進歩が早く多くの研究がなされています。理由は女性が最も罹りやすい癌であることと、それに対して多く資金が研究開発のため欧米を中心に投入され成果を出しているからです。新しい研究成果や（臨床）試験結果は、主に欧米の学会で発表され新しいエビデンス（治療の根源となるデータ）として即座に臨床へ反映されます。

ここで少し話が変わりますが、情報には**2つの種類**があることをご存知でしょうか？今までの既に発表された（既知の）情報をまとめてわかりやすく整理された状態のもの

を「**二次情報**」と呼び、新しい（比較的狭い分野に対しての）専門的情報を「**一次情報**」と呼びます。前述した学会の発表は、主に後者の「一次情報」にあたります。例えるなら一次情報＝素材、二次情報＝料理であり、料理はお店を間違えなければ信頼できる（美味しい）ものが食えますが、素材（一次情報）に関しては個々がインターネットで探しにいくのは「素人が築地市場に行って良い魚を探す」のようなもので、よほど専門的な知識がないと正確に理解することは難しく、逆に間違った解釈を生むことがあります。

一方で、病気と闘っている患者さんが欲しているのはどちらの情報でしょうか？これまでの情報をまとめたものではなく、いまの自分や家族の病気に対して希望となる新しい知見＝一次情報です。ではどこに行けば、質のいい素材

(一次情報) 得ることができるのでしょうか？

前置きが長くなりましたが、「海外がん医療情報リファレンス」は皆さんに質のいい素材を届けてくれる仲卸のような存在だと思っています。ここに並べられた情報は厳選された一次情報であり、信頼できるものです。医療者でも、

専門が変われば最新の情報に疎くなります。「海外がん医療情報リファレンス」が発信する情報を持って皆様ご自分の主治医と話し合うことで、より良い医療が展開されることを願っております。



「補完代替医療」に関する 正確な情報を伝えるために

大阪大学大学院 医学系研究科 統合医療学寄附講座 大野智

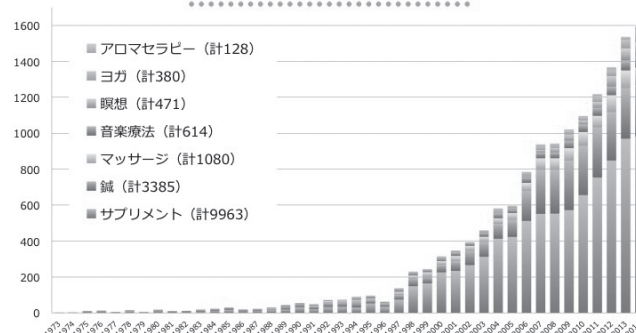
日本癌医療翻訳アソシエーツ (JAMT)

では、「補完代替医療」分野の監修を担当しています。補完代替医療という言葉は、初めて聞いたという人がいるかもしれません。ですが、具体的な例として、健康食品・サプリメント、鍼灸、ヨガ、気功、音楽療法などが該当すると聞けば、馴染みのあるものや興味・関心があるものも多いのではないのでしょうか。

厚生労働省がん研究助成金研究班による調査では、癌患者の約8割が補完代替医療に関心があったり、実際に利用していたりする実態が明らかとなっています。しかし、安全性や有効性に関する情報は十分に得られておらず、また主治医に相談もできず不安をかかえたまま利用しているという問題点も指摘されています。

では、この補完代替医療に関する研究、特に人を対象としたランダム化比較試験は、どれくらい実施されているのでしょうか。PubMedで検索をすると、図に示す通り、論文報告数は、まさに右肩上がりの様相を呈しています。また、コクランレビューにおいても、全体の約10分の1 (671/6,736報: 2016.11.28現在) が、補完代替医療のカテゴリーに分類されています。もちろん、すべての報告が補完代替医療の有効性を立証したものではありません。逆に有効性が否定された報告もあります。いずれにし

補完代替医療に関するRCT報告数



データベース: PubMed、検索日: 2016.8.25

ても、正確な情報を患者さんに伝えることが重要になりますので、JAMTの活動を通して微力ながらそのお手伝いができればと思います。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

[追記]

厚生労働省委託事業でおこなっている『「統合医療」情報発信サイト』(<http://www.ejim.ncgg.go.jp/>)の作成において、英語コンテンツの翻訳に関してJAMTの皆様の多大なるご協力をいただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

人と人の思いをつなぐ、医療翻訳

飯塚病院 呼吸器内科 吉松由貴



〈ラオスで医療ボランティアに参加〉

医師として未熟ながらも4年前からJAMTの活動に参加させていただいております。幼少期を海外で過ごし、言葉や風習が異なるなかで

医療の受け手になる心細さを知りました。そのときの思いや、手を差し伸べてくれた方への御恩、異文化生活の経験を医療につなげようと、医学生の際は医療通訳をしてお

りました。就職後は通訳として出向くことはできませんが、国境を越えた医療のつながりに別の形で関われないかと探し求めて、出会ったのがJAMTでした。翻訳に苦手意識があったものの、仕事と両立できそうというやや消極的な動機だったかもしれません。実際にやってみると、翻訳者の方は一語一句を几帳面に訳され、そしてJAMTの方がそれはそれは丁寧に確認後に送ってくださるので、身が引き締まる思いでした。翻訳は言葉をただ置き換えるだけではどうもうまくいきません。英文を書いた方の伝えたかったことと、それを読んで翻訳者が感じたこと、訳文に込めようとした意味を想像し、理解すること。そして和文の読み手がどう受け止めるかに思いを馳せながら、文字を推敲して

いくこと。最新の医療情報を、人と人となめらかな曲線でつないでいるのを感じたとき、医療翻訳というものが全く新たな意味合いをもち、腑に落ちた気がしました。通訳と同じぐらい、あるいは相手が見えないからこそもしかしたら通訳以上に、翻訳や監修は異文化と他者への理解を要するようです。

夏に1週間の休暇を頂き、ラオスで医療ボランティアをさせていただきました。ジャパンハートという非営利団体の活動です。物心ついてからあまり言葉で苦しむことがなかった私にとって、通訳を介さずには何もできないというのは初めてのことでした。遠くから助けを求めてきてくれた患者さんの言葉が聞き取れないとき、自分の無力さと、

通訳者のありがたさを痛感しました。異国の地で患者さんのために身を尽くすかけがえのない仲間とも出会い、医療や通訳・翻訳に携わる者として貴重な経験でした。日ごろ様々な形で医療に携わっておられる皆さんも、一度、味わってみてはいかがでしょうか。一般の方々のボランティアも常時募集されています。翻訳や監修をする上で、机上の勉強や先進医療だけでなく、ときに自ら異国の医療に飛び込んでみることを。その生々しい体験こそが、また日ごろの診療や通訳・翻訳にも、何かの形で生きてくると感じた時間でした。

参考：特定非営利活動法人 ジャパンハート
(<http://www.japanheart.org/>)

5. 翻訳者から



JAMTの発展に期待する理由 ローランド純代

この度、副理事の野中さんよりニュースレターに寄稿しませんかとお誘いを受けた時、「私が？」と、正直、戸惑いました。でも、きっと今から私が書くことをお読みになれば、その理由がお分かりになると思います。

私は白血病サバイバーです。2014年6月末、「急性骨髄性白血病」と診断され、緊急入院。初回の抗がん剤は効かず、骨髄バンクを待つ時間もなく、このままでは余命数カ月と言われました。ショックでした。でも、2つの医療チームの迅速な連携プレー、家族や知人・友人の応援、善意の方による献血と臍帯血、そして医学の進歩のお陰で、同年9月初旬、非寛解で「さい帯血移植」を受けることができました。

移植治療はとても辛く、独りぼっちなクリーンルームで、天井を眺めながら「元気になって、恩返しをしたい」と考えていました。そして、やっと今年の5月からJAMTに参加しています。

7月末には佐々木先生の「白血病についてのがんセミ

ナー」に参加し、メンバーの方々と白血病が通常の固形がんとは異なることや用語などの説明を聞きながら、こういった積み重ねが医療翻訳の質を高め、正確な情報の公表に繋がるのだと実感しました。また、セミナー後には、佐々木先生から私の個人的質問にもご回答いただき、本当に素敵な時を過ごしました。

白血病と告知されてから、些細な日常がどれだけ幸せなことか、そして、多くの人が新しい薬や治療法を求めていること、病気は病人だけではなく、その家族にも深く影響を及ぼすことなど、いろいろなことを日々痛感しています。

現在、体調があまりすぐれず、JAMTに多くの貢献ができないのが残念ですが、JAMTが翻訳、公表する海外の治療や新薬、治療法などの情報は、多くの患者やその家族、医療関係者にとっての「希望の光」です。是非、今後ともJAMTがより大きく発展し、より多くの方に正確で迅速な情報が行き渡り、医療の進歩に貢献できるよう、願っております。



JAMTとの出会い 山田登志子

私がJAMTの存在を知ったのは、『医学・薬学の翻訳・通訳完全ガイドブック』（2011年7月1日イカロス出版発行）巻頭カラー4ページにわたる野中さんのインタビュー記事でした。その雑誌を買った2012年夏、私は20年近く続けていた在宅翻訳から離れ、事務職員として働き始めていました。

在宅翻訳をやめた理由は、家で孤独から逃げ出すためでした。長男に続き、次男も県外の大学に進学し、夫婦だけの暮らしが始まって数か月後の2011年7月、健康その

ものだった夫が突然、倒れました。すでの方々に転移した腎臓がんと診断され、7か月の闘病の末、2012年2月に他界しました。

その後、在宅ではなく大勢の人と一緒に働くことで、私の孤独もかなり癒えました。そして、仕事を続けながら翻訳に関われる道はないものかと思案していたところに野中さんのインタビュー記事に出会ったのです。翻訳で社会の役に立てるなんて願ってもないことと思い、2012年7月に翻訳者として登録していただきました。

JAMTでは、がん治療の最新情報を目の当たりにして、確実に進歩し続けていることに感銘を受けます。私が特に関心を抱く分野は緩和ケアです。緩和ケアを受けることもなく、亡くなる1か月前まで抗がん剤治療を受け続けた夫の闘病の様子を思い出すたびに、「もっとよい方法があったのではないだろうか」と考えてしまいます。あれが最善のケアだったのかもしれませんが、患者自身や家族がそう

は思えなかったことが残念です。こうしたことで思い煩う人が少しでも減るように、この分野の有益な最新情報が広く普及することを願っています。

JAMTの管理運営に携わる皆さま、監修の先生方の志の高さと熱意には、深く敬服いたしております。ますますのご発展をお祈りいたします。



JAMTとの出会い 白石里香

2015年春よりボランティア翻訳者として活動に参加させていただいています。この約2年間で医療翻訳に関する様々なことを学ばせていただきました。

思えばJAMTとの出会いは偶然でした。個人的に興味のあった製薬会社がJAMTのサポーターだったことで、インターネット検索で『海外がん医療情報リファレンス』に辿り着いたのがきっかけでした。私は当時、医薬品の安全性業務で翻訳をしていましたが、より深い内容の医療・医薬品情報の翻訳に取り組んでみたいという思いがありました。その思いを叶えてくれたのが、このJAMTでの翻訳ボランティアです。

ボランティアといえども、扱う記事はどれも専門的です。専門用語の訳語選択や用語集・スタイルガイドとの統一など、気をつけるべき箇所は多岐に渡り、調べものも含めると翻訳にはそれなりの時間と労力を要します。それでも取り組むことができるのは、同じように奮闘していच्छや

る（と、仲間意識からそう信じております…）ボランティア翻訳者のみなさま、ご多忙な中で監修をしてくださる先生方、その間で橋渡しをしてくださるコーディネーターの方々、校閲の方々など、活動に携わるみなさまの存在があるからです。

また、専門医師や薬剤師によるがんセミナー、医療翻訳ワークショップも毎回内容が充実していて、いつも楽しく受講させていただいています。参加する度に感心することが、講演者の先生方の熱意と講義の分かりやすさです。大学が文系だった私でも、理解して納得しながらお話を聞くことができ、講演される先生方の温かいお人柄とも相まって、どの回も充実した時間を過ごさせていただいています。

海外の有益な情報を日本語でお伝えするという、言わば翻訳の醍醐味ともいえるJAMTでの活動を、これからもコツコツと続けていきたいと思っています。



学びの場でもあったJAMT 橋本奈美

私がJAMTに関わるようになって、早4年。私事ですぐ13年前に筋肉の病気になり、自宅療養をする日々でした。

発病当時は、治験コーディネーターとしてハーセプチン（効能追加）などの仕事に携わっていましたが、分子標的薬はまだ数種類ほどしかなかったため、画期的新薬として注目されていました。画期的だったのは作用機序だけではなく、当時としては高額な薬価（オプジーボにははるかに及びませんが）も話題になっていました。

それから、わずか10年余の間に種々の分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などが発売され、がんの治療法も様子が変わりました。現場での仕事はかたがたありますが、こうした時代の流れを目の当たりにすることができたのは、とても幸せなことだと感じています。

とはいえ私自身、翻訳の勉強をしたことがなかったので、ゼロからのスタートでした。語学力不足、知識不足を痛感する日々でした。

それでも、ここまで続けることができたのは、私がこれまでお世話になったがんサロンのスタッフ、FDA

ニュースなどを担当されている方々の一つ一つの記事への取り組み方でした。少しでも疑問に思う点があれば、過去の論文や学会データを検索する、薬剤名の表記方法や適切な訳語が見つからないときには、過去にアップされた記事に当たるなど、土日を問わず一生懸命取り組まれている姿に刺激を受ける日々でした。

また、監修の先生方もお忙しい診察や研究の合間に、本当に丁寧に添削してくださり感謝しています。訳語としては間違いではなくても、医療現場では一般的な表現ではないなどのご指摘は、最前線でご活躍しているからこそそのものだと思います。

これはどれほど独学で勉強をしても学ぶことはできないので、こうした先生方と接することができるのもJAMTの良さだと思っています。

がんの情報は玉石混交。「正しい情報を伝える」という使命を忘れずに、これからも精進していきたいと思っています。ご指導のほど、よろしくお願い致します。

6. 副理事長から

混迷する日本のネット医療情報と新時代への期待

副理事長／統括責任者 野中希



本年度も『海外がん医療情報リファレンス』では、ボランティア翻訳者、監修者、スタッフの方々のご尽力により多くの情報を翻訳、提供することができました。厚く御礼申し上げます。

ご存じのように、昨年後半には、某企業によるネット上の医療情報汚染のニュースが流れ、いくつものキュレーションサイトと呼ばれるものが閉鎖される事態となりました。JAMTのミッションとは正反対の方向にネット社会が動いていたことを知り衝撃を受けました。

約10年前、研究で示された日本のがん治療情報の日米格差（正しい治療情報は米国8割、日本3割：JTO 4: 829, 2009 Goto et al）は、今では様変わりして日本の医療情報モリテラシーも向上しただろうという淡い期待も崩れ去りました。

近年、多くの医療関係者や専門家、組織や企業が正確な情報発信に努める姿勢を示す中、一方で検索上位に挙がってくるのはいい加減なニュースであったり個人クリニックの宣伝であったりと正確な情報がどんどん埋もれていくことを実感していたのも事実です。医学的根拠を尊重した医

療情報が当たり前に入れられるようになるにはどうしたらよいのでしょうか。

昨年4月には、患者申出療養や日本版コンパッショネートユース制度が導入され、今後の動向が注目されています。昨年12月には、10年が経過する「がん対策基本法」の改正法が国会にて成立しました。がん患者代表の皆さんが要望書の提出を呼びかけ、連日国会を訪れて訴え続けた成果でした。『がんとともに生きる』ことができる社会の実現を目指すうえで、＜情報の非対称性＞の解消は重要な課題であり、インフラの一つと考えます。

ゲノム医療の時代を迎え、がん個別化医療（プレシジョン・メディシン）や、IBMのワトソンのようなAIの実用化が近い将来にも見込まれ、がん治療に大きな変革をもたらしつつあります。それらを目の当たりにしている（がん患者の視点での）昂揚感、そしてその最先端の情報に触れ、患者さんや医療関係者の方々に提供できる喜びを、今後も活動の源として励みたいと思います。

今後も皆様に、『海外がん医療情報リファレンス』をご愛顧いただきますよう、そして当サイトが社会的に認知され、一人でも多くの情報を必要とする方々に届けられるよう呼びかけ、広めていただければ幸いです。

欧州臨床腫瘍学会(ESMO)患者アドボケート参加

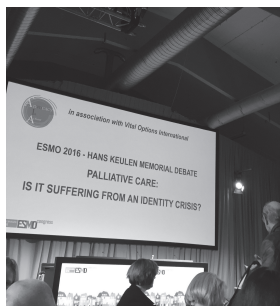
2016年11月7～11日、デンマークのコペンハーゲンで開催された欧州臨床腫瘍学会（ESMO）総会に野中希が患者アドボケートとしてトラベルグラントを頂き参加しました。ESMOでは本セッションの一部として、ESMO患者ワーキンググループにより、アドボケートトラックのセッションが開催されました。欧州各国の壁を越えたさまざまなトピックでの啓発や教育が行われていました。EBMを基本とし、変化の大きな臨床現場で新たに起こる課題に迅速に対応したセッションで新鮮な学びを得ました。



〈ESMO ブース〉



〈患者さんと〉



〈患者セッション〉

2014年にEUにより創設された「欧州患者アカデミー（European Patients Academy on Therapeutic Innovation）」の存在があることも知りました。メラノーマのアドボケートの方々は1年半かけて卒業されたとのことでした。

スウェーデン、ドイツ、英国、オランダ、ルーマニア、ブルガリア、トルコなどなど国際色豊かなアドボケートの方々と実際にお話ししたり、情報交換したりすることができました。患者さんらはどこの方々も温かく、打ち解けて共通する熱い思いを確認できた旅でした。

一方で、国際的な患者団体からは、日本やアジアからの参加が全くないという懸念の声も聞きました。今後、言語の障壁を払拭し、日本の患者会も世界と一丸となってがんと闘えるためにJAMTが少しでもお役に立てればと考えます。

7. スタッフから

翻訳者管理アシスタント／白井千恵子

2016年度は翻訳件数が増えただけではなく、題材リストやWEBサイトが新しくなったり、保管資料の整理が進んだりと変化の多い年でした。これからも、移り変わる社会のニーズや流行を取り入れつつ、有益ながん関連情報を日本語でお届けできれば良いですね！来年度も翻訳メンバーのサポート役として参加したいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

NCIファクトシート担当／日ノ下満里

翻訳者の皆様、監修の先生方、またスタッフの皆様にはお忙しい中たくさんのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。JAMTの活動は皆様のご協力あってこそだと日々感じております。がん医療情報を必要とされている方に一日でも早く正確な情報をお届けできるよう、私も努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

NCI臨床試験結果 NCIニュース担当

／佐藤美奈子

NCI 担当の佐藤です。先生方をはじめスタッフの皆様さんには、ご多忙のところをご協力いただきまして、誠に感謝いたします。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

その他公的記事担当／林さやか

皆様にはいつもお世話になりありがとうございます。今年は通常の作業に加え、サイトリニューアルに伴ったお手伝いもさせていただき、忙しくもやりがいのある一年でした。今後ともよろしくお願い致します。

FDA ニュース担当／岐部幸子

今年FDAスタッフになりました。すみやかに情報が発信できるように努力しています。翻訳未経験で入会したのですが、翻訳者の皆様、監修の先生方、スタッフの皆様から多くのことを教わり、大変感謝しています。今後も皆様と協力し合い活動に参加したいです。よろしくお願い致します。

大学・施設ニュース／小石みゆき

大学・施設ニュースを担当させて頂いて1年が経ちました。その間に多くの訳文に触れ、私自身もとても勉強させて頂きました。これからも微力ながら皆様のお役に立てよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

MDA OncoLog 担当／河原恭子

MDAの月刊誌OncoLog、今年も12月号まで掲載することができました。これも、いつも快くご協力くださる監修の先生方、翻訳担当者の皆様、そしてあらゆる面で細やかなサポートをしてくださる事務局スタッフの方々のおかげと心より感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

医療ニュース担当／山田登志子

監修の先生方には、おそらく想像を絶するご多忙の中、監修はもちろん、私の愚問に対しても懇切丁寧に解説していただき、心より感謝申し上げます。また、これほど見返りの多いボランティア翻訳は少ないと思います。今後ともよろしくお願い致します。

学会ニュース担当／生田亜以子

学会ニュースを担当させていただいたこの1年間、多くのことを学ぶことができ、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。皆様には多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。これからも、翻訳を通じて、JAMTの活動に積極的に参加させていただきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

動画担当／山口夏代

字幕講習会に参加された皆さま、是非、字幕翻訳に挑戦してください。せっかく身につけられた技術を、是非、実際の動画翻訳に使ってください。サイトも刷新され、今年度も新しい動画をアップすることを楽しみにしています。

メルマガ担当／重森玲子

メルマガは2週間ごとに発行し、読者の皆様に新着記事をお届けしております。ESMO開催に伴い、2週間で本当にたくさんの記事がサイトにアップされており、驚きました。みなさんお忙しい中、どうか時間を作って作業されて完成した翻訳記事が、メルマガを通じてたくさん読者に読まれていると思うと責任を感じます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

コ克蘭担当／佐治京子

本年度から始まったコ克蘭レビューの翻訳プロジェクトのお手伝いをさせていただいています。世界的に展開されている大きな翻訳プロジェクトで、内容は大変興味深くやりがいもありますが、

それだけに翻訳の品質管理や内容理解に大きな時間と労力がかかることも実感しています。校正の遅れなど、翻訳者の皆様や関係者の方にはご迷惑をおかけすることも多いですが、どうぞご容赦ください。JAMTにはこのような機会を与えてくださったことに感謝するとともに、引き続きJAMTとコ克蘭の活動の両方をお手伝いさせていただければ幸いです。

コ克蘭担当／八木佐和子

コ克蘭翻訳担当の皆さま、監修の先生方、スタッフの皆さま、一緒に担当して下さっている佐治さんのご協力により何とかここまで出来ました。とはいえ、うっかりしていて冷や汗をかいたり、判断に戸惑ったりなど、失敗、試行錯誤もありました。翻訳はもとよりさまざまな面で学ばせていただいております。このような機会をいただき感謝しております。今後とも問題点等、ご指摘いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

タイトルチェック担当／鶴田京子

タイトルチェック担当、鶴田です。たくさんの方の手を経た記事が、より多くの読者様に読んで頂けるように、わりやすく魅力的なタイトルを目指してこれからも頑張らせて参ります！皆様今後ともどうぞ、よろしくお願い致します。

翻訳管理／小泉美希

ランク評価を担当させて頂いております小泉美希と申します。皆さんが貴重な時間を割いて翻訳して下さいた記事を、いつも大事に拝見しております。今後もJAMTを通して、正確な医療情報を提供することに関わっていきたく思っております。

NCI薬剤情報担当／下川智美

NCI薬剤情報担当／萬田美佐

タイトルチェック担当／金田澄子

NCIガイドブック電子書籍化担当／寛貴行

原文許諾申請担当／菅原宣志

サイトリニューアル担当／SNS担当／日ノ下満里

事務局スタッフ

運営統括／野中希

事務局／水野恵、川見佐知

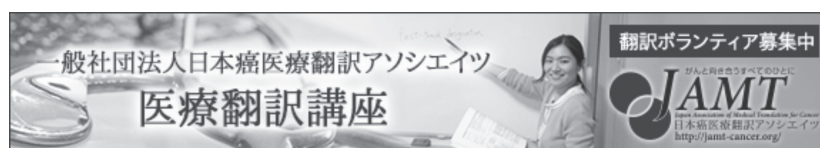
会計／水野恵

収益部門翻訳コーディネーター

／鳥居塚千恵、今泉眞希子

医療翻訳講座

一昨年度より始まった医療翻訳講座。新たな講座として「基礎実践講座(Bコース)」と「Aコースレビュー」を開講し、受講生のレベルに合わせた授業環境を整えました。A、B、通信コースを含めて全コースで多数の受講生が修了されました。来年度もJAMTならではの充実した内容を提供します。



講師／今泉眞希子

今年度より新たに開講した「Aコースレビュー」では、Aコースで学んだ基礎知識を土台に、がん医療に関する最新記事の翻訳にチャレンジします。生徒さんの意欲も高く、毎回積極的に参加していただきました。来年度もご参加お待ちしております。

講師／石崎智子

We JAMT now offer you 3 different courses to study medical translation as well as basic knowledge on cancer. Why not come here and have exciting class together with us! Awaiting for your apply for 2017 classes.

8.事務局からのお知らせ

(事務局 Email:office@jamt-cancer.org)

●2016年度(1月～12月)会計報告は、JAMT オフィシャルサイトに3月中に掲載予定です。

●翻訳支援ソフトの会員特典について

プロの翻訳者に好評の翻訳支援ソフト「トラツール」(発売ロゼッタ)を
JAMT 会員の方は4割引で購入いただけます。ご希望の方は事務局までお知
らせください。

●各ワークショップ・セミナー資料、 音声、冊子販売について

・医療翻訳ワークショップ(全3回)

＜翻訳者が知っておくべき＞「がんの分子
生物学、診断、薬物治療をはじめとした各種治
療と臨床試験の知識」～肺がんを中心とした薬
物学的アプローチに関する最新知見～田中 文
啓先生の講義音声と資料を会員の方のみご購入いただけます。



ご希望の方は事務局までお知らせください。

第1回、第2回、第3回 各 2,000円 3回分セット4,800円 (送料込)

・米国立がん研究所(NCI)ガイドブック

「再発したとき」 300円

「がん治療後の生活」 400円

「がんの臨床試験(治験)ハンドブック」 500円

以上の冊子販売をしています。

ご希望の方は事務局までお知らせください。

・医療翻訳講座テキスト(改訂版) 会員のみ特別販売

定価5,000円→会員特別価格2,160円(税込、送料別)

販売代金、手数料のお振込先はこちらです。

(会費振込先とは別口座になります)

【振込先】三菱東京UFJ銀行

【支店】仙川支店

【口座番号】普通 0072693

【名義】一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエツ

シャ)ニホンガンイリョウホンヤクアソシエツ



2017年度年会費お振込みのお願い

次年度は2017年4月1日から2018年3月31日と
なります。会費につきましては2017年3月25日まで
にお振込みをお願いいたします。(会員資格については
JAMT ホームページ＜会員登録と寄付＞をご確認くだ
さい)

【振込先】ゆうちょ銀行

記号 10030 番号 78505391

一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエツ

他行からのお振込みはこちらをご覧くださいお手続きをお願いします。
http://www.jp-bank.japanpost.jp/kojin/tukau/sokin/koza/kj_tk_sk_kz_furikomi_stp.html

* 退会をご希望の場合は、その旨必ずメールで事務局までご連絡をお願い
します。引き続きみなさまのお力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

9.組織概要

名 称	一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエツ
所 在 地	〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-22 S2ビル8F
連 絡 先	office@jamt-cancer.org TEL 03-3356-5710 FAX 03-5367-6032
設 立 年 度	2009年4月1日 一般社団法人 (2004年10月～任意団体)
ボランティア翻訳 所属メンバー (2017年1月現在)	ボランティア翻訳者 132 名 監修者: 51 名

- JAMT オフィシャルサイト <http://jamt-cancer.org/>
 - 海外がん医療情報リファレンス <http://www.cancerit.jp/>
 - Twitter アカウント JAMT: @jamt_cancer 癌リファ: @cancer_ref
 - Facebook ページ JAMT: jamtforcancer 癌リファ: cancerreference
- 医療翻訳講座: @jamtfortranslators

理 事	理事長 久保田 馨 医師/日本医科大学付属病院 がん診療センター/呼吸器内科
	副理事長 野中 希 医療翻訳者、医学ライター
	理事 今村 知世 薬学博士/慶應義塾大学医学部 臨床薬理学教室 講師
	理事 後藤 悌 医師/国立がん研究センター 呼吸器内科
	理事 辻村 信一 メディカルライター(獣医学/農学)
	理事 林 正樹 医師/社会医療法人敬愛会中頭病院 血液腫瘍内科

監 事	監事 久賀田 郁子 著述業
	監事 関 有美

10.協賛企業

JAMTの運営支援をいただいた企業様に厚く御礼申し上げます。

企業協賛(順不同)

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
MSD 株式会社 日本イーライリリー株式会社
日本化薬株式会社 大鵬薬品工業株式会社
中外製薬株式会社

寄付(助成金)

大日本住友製薬株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

発行: 一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエツ Japan Association of Medical Translation for Cancer (JAMT)
東京都新宿区新宿2-15-22 S2ビル8F TEL:03-3356-5710 FAX:03-5367-6032
Email:office@jamt-cancer.org 公式HP:<http://jamt-cancer.org/>
2017年2月/第8号